

# 緊急

令和4年8月2日

兵庫六甲三田営農総合センター

## イネカメムシの対策について

### 1. イネカメムシの特徴

三田市藍・本庄・広野地区を中心に、7月に入りイネカメムシが早生品種の圃場で多く見られます。この虫は、出穂した籾の胚を好んで吸汁するため、不稔となり、穂が垂れずに立ったままの状態になります。すでに出穂した穂には昼間でも多くのイネカメムシが寄生しています。イネカメムシは斑点米となる他のカメムシに比べて多くの籾に加害するため、被害が甚大となる可能性があります。

被害が目立つのは、早生種では周囲よりも出穂の早い圃場、中晩生品種では出穂の早い圃場と一番出穂の遅い圃場になります。



↑ 出穂間近のイネの株元に潜むイネカメムシ



↑ 出穂直後の稲穂に集まるイネカメムシ

### 2. 対策

イネカメムシの対策は、スタークルメイト液剤10またはスタークル顆粒水溶剤を虫を確認して出穂前後に散布することが有効です。(粒剤では農薬の効果が現れるまでに相当数の籾が加害されます。)

※ただし、薬剤の残効期間が散布してから約10～14日と言われているため、斑点米カメムシ対策として、出穂5～10日後にスタークル粒剤やスタークル豆つぶ等をもう1回散布する必要があります。

薬剤名	適用病害虫	希釈倍数	10aあたり使用液量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
スタークル顆粒水溶剤	カメムシ類	2000倍	60～150L	収穫7日前まで	散布	3回以内
	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	3000倍				
スタークルメイト液剤10	ウンカ類 カメムシ類	1000倍	60～150L	収穫7日前まで	散布	3回以内
		300倍	25L			
		8倍	0.8L		無人航空機による散布	